

東京都三鷹市にある「シニアSOHO普及サ

ロン・三鷹」は、シニアの「居場所」と「出

番」を創り提供している、コミュニティビジ

ネス型NPOの草分け的な存在だ。今年で17年目を迎える同NPOで

は、多岐にわたるさまざまな事業を展開している。現在、三鷹市役所庁

内PCヘルプデスク事業のプロジェクトリーダーを務める角田有子（つ

のだ・ひろこ）さん（68）＝写真＝に話を聞いた。



■身に付けたパソコンのスキ
ルで再就職

プログラマーとして建設コン

サルタント会社で3年間勤務し

た後、結婚を機に退職した角田

さんは、40歳まで子育てや介護

ていたという。

に忙しい日々を過ごしていた。しかし、その間もいつか再就職ができるようにと、パソコンの勉強を続け専門学校などに通い、スキルのキャッチアップに努めていたという。

1990年、

パソコン普及率

が急速に上昇

し、パソコン・

インストラクタ

ーなどの求人

が増え始めたこ

ろ、角田さんは

日立製作所に中

途採用され正社

員として働き始

める。

「ちょうど、大手企業でパソコンが1人になっ

〈NPO編〉シニアSOHO普及サロン・三鷹③

「シニアSOHO普及サロン・三鷹」のホームページ (<http://www.svsoho.gr.jp/index.html>)



1990年、パソコン普及率が急速に上昇し、パソコン・インストラクターなどの求人が増え始めたころ、角田さんは日立製作所に中途採用され正社員として働き始める。ちょうど、大手企業でパソコンが1人になっ

パソコン技能磨き続けて

一生働く!

オレンジ世代の「生きがい」探し

立のOBであり、自身のパソコン知識が生かせることが入会の理由だった。

「企業向けと個人向けの違いはありましたが、パソコン関連のことを教えるという意味では同じでしたから、違和感なく入会して事業に関われました。地元での仕事で働きやすいのも良かったですね」（角田さん）

角田さんがプロジェクトリーダーを務める市役所庁内PCヘルプデスク事業は、05年からスタートし、11年目となる。元コンピュータ関連会社勤務や、SITA（シニアITアドバイザー）取得者などで構成され、現在メンバーは3人。週3日、電話によるヘルプデスク業務をおこなっている。角田さんは09年からプロジェクトリーダーとして人材の確保、予算管理、業務管理など一連の業務を担っている。

そんな角田さんの今後の目標は、仕事はセーブしつつ最近始めた「書道」を極めていきたいということ。年上で、すてきな人たちとの出会いもあり、刺激がもたらえて楽しいと笑顔で話してくれた。

魅力
2002年6月に角田さんは早期退職したが、その3カ月後には同NPOに入会していた。当時の代表であった堀池氏が日

（「オレンジ世代」取材班）